

西ヌサ・トゥンガラ州知事

2018年8月27日 プレスリリース

先の自然災害によるロンボク島の復旧作業は、順調に行われています。

2018年8月25日には被災地の非常事態宣言が解除され、引き続き懸命な復旧作業の努力を続けています。

去る8月13日にジョコ ウィド大統領がロンボク島北部の被災者キャンプを訪問し、その指示は明確で、「直面する課題に立ち向かい、復旧へ向け奮闘せよ。」というものでした。

また、大統領は8月23日にロンボク島の復旧を加速させるための計画的な大統領令(INPRS)を発表しました。この命令には地震による被災者に向けた緊急援助のための国家資金や、国家防災庁、警察とインドネシア国軍の復旧作業動員、そして被災地における家屋の再建やインフラ復旧のための国家資金の配分が含まれます。

被災した地域は島の北部に限られた地域である事を明記するとともに、今後この救援活動及び復旧計画に重点的に取り組みます。

尚、ロンボク島の被災地を除く多くの地域は地震の影響をほとんど受けていません。

ロンボク国際空港、レンバー港及びバリ島とロンボク島を結ぶ主要な港は引き続き平常通りのオペレーション体制です。また、航空便とフェリーも引き続き平常通りの運航体制です。

バリとロンボク島を結ぶ高速艇 Eaka Jaya Fast Boat は、8月16日(木)に運航を再開しており、その他高速艇も9月上旬の運航再開予定である旨発表しました。

北部及び東部のいくつかの一部地域を除き、全島を通して電気、水道、インターネット通信、道路などのインフラは平常通りです。

スングギと西海岸地域は急速に復旧しており、多くのホテルや店舗は営業を再開しているか、この数週間以内に再開の予定で、観光のお客様も戻ってきています。

アンペナン、マタラムとチャツラヌガラの町の市場や店は平常通り営業しています。

ギリ諸島への電気の供給は再開され、現在政府の作業部隊により瓦礫などの除去作業が続けられています。外国人及びインドネシア人居住者、そしてそのスタッフ達は既にギリ各島に戻り、それぞれ島の運営再開のために作業を続けています。尚、ギリ諸島でも既にいくつかのビジネスは再開されており、又は多くが9月上旬の営業再開を目指しています。

ロンボク本島とギリ諸島を結ぶパブリック・ボートの定期運航は既に再開されており、8月17日には再開後最初のお客様がギリ・アイルに到着されました。

クタと南海岸(マンダリカ、グルプック、スロン・ブラナツ、他)、及び南西海岸とその島々(スコトン、タウン、ギリ・グデ、他)は地震の影響をほとんど受けておらず、引き続き平常通りお客様をお迎えしております。

私達は、国内外から寄せられた援助と、私達の島の復興に寄与して下さった全ての皆様に感謝を申し上げます。

私達は、市民の雇用維持と日常への復興の面からも、ツアーリストの皆様の訪問を歓迎いたします。

2018年8月27日マタラム

西ヌサ・トゥンガラ州知事

Dr. TGH M. Zainul Majdi